

教育に関する事務の管理及び執行状況の  
点検及び評価に関する報告書  
(令和5年度事業実績)

令和6年8月  
茨城町教育委員会

# 目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	2
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	3
6	評価委員会実施日	3
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果（令和5年度事業）	4-5
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	小学校理科教育設備整備事業	6
No.2	中学校理科教育設備整備事業	7
No.3	小学校入学祝い品贈呈事業	8
No.4	道徳教育推進事業	9
No.5	語学指導事業	10
No.6	教育支援センター事業	11
No.7	学習指導支援講師配置事業	12
No.8	特別支援教育支援員配置事業	13
No.9	中学生自然体験教室事業	14
No.10	農業体験事業	15
No.11	スクールバス運行事業(小学校)	16
No.12	スクールバス運行事業(中学校)	17
No.13	小学生ヘルメット配布事業	18
No.14	中学生ヘルメット配布事業	19
No.15	青少年育成事業	20
No.16	放課後子ども教室推進事業	21
No.17	町民教養講座開設事業	22
No.18	長生大学運営事業	23
No.19	人づくり推進事業	24
No.20	図書館運営事務	25
No.21	読書推進活動事業	26
IV	教育委員会における今後の対応について	27

## 教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

### 1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成20年4月1日施行）の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、令和5年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

#### 【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

### 3 対象

茨城町第6次総合計画前期基本計画に基づき、令和5年度に実施した教育委員会の主要な21事業を対象とした。

### 4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

#### 【原課評価：事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

○必要性 ・ ・ ・ ・ 「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」

○有効性 ・ ・ ・ ・ 「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」

○効率性 ・ ・ ・ ・ 「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

#### 【委員評価：評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

清水 正三 (元茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

副委員長

早乙女 恵美子 (元教育委員会職員)

委員

高倉 進 (学校法人田村学園 認定こども園 まさみ幼稚園園長)

6 評価委員会実施日

令和6年7月17日(水)

## 茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(令和5年度事業)

事業数	分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲				原課評価			委員評価			
				国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校	中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等		
1 2	学校の整備	理科教育の振興		○		○			No.1 小学校理科教育設備整備事業	No.2 中学校理科教育設備整備事業			高	高	高	現	補助金など活用し、理科教材の充実に努めていることは評価できる。購入後の教材は、授業において積極的に活用してもらいたい。	
3	生きる力の育成を重視した教育活動の推進・心の問題への対応・安全対策・通学対策の推進	健やかな成長と家庭支援				○			No.3 小学校入学祝い品贈呈事業				高	高	高	現	入学祝い品の贈呈という取り組みが、町をあげてお祝いをしているという雰囲気があり、良い事業だと思う。また、広報等にも掲載されており、祖父母をはじめ関心が高く、喜びの声を聞いている。子どもたちへの教育や家庭への経済的支援においても効果があることから、今後も継続していただきたい。	
4		規範意識や社会性の向上				○			No.4 道徳教育推進事業				高	高	中	現	町は以前から道徳教育を重点的に取り組んでいる。子どもたちの心の教育はとても大切な事業だといえる。今後は、予算にもよるが、講演会以外にも、さらに幅広い内容で実施してほしい。	
5		英語教育の強化と指導体制の充実				○			No.5 語学指導事業				高	高	高	現	ALTの各校1名体制は、今後も継続してもらいたい。テストの結果や平均点も大切ではあるが、ALTを確保し、体制を継続することが重要だと思う。	
6		不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援				○			No.6 教育支援センター事業				高	高	高	現	学校へ行けない子どもたちが増えている中、支援センターが身近にあることは、子どもや保護者の心のよりどころとして、安心できると評価する。子どもの自主性を尊重できる場所という存在が必要であり、今後も継続していただきたい。	
7		個に応じたきめ細やかな学習支援				○			No.7 学習指導支援講師配置事業				高	高	高	現	教科のバランスと講師の確保は大変だと思うが、講師を各校1名配置していることは評価する。しかし、中学校における令和4年度から令和5年度における「数学の勉強が好き」の割合が減少しているのは心配である。	
8		個別に支援を要する児童・生徒の学校生活の支援				○			No.8 特別支援教育支援員配置事業				高	高	高	現	中学校における支援を要する人数が減少しているということは、小学校からの指導が行き届いているものと評価する。低学年のうち手厚い支援を行うことにより、健やかな成長にもつながる。増員をしてもよいと思うが、現状の維持し、継続をしていただきたい。	
9		自然体験と集団生活を通じた人間育成				○	○			No.9 中学生自然体験教室事業			高	高	中	現	自然体験教室に係る諸経費が値上げしているため、町助成金は保護者の負担軽減になっている。生徒の参加率も良く、楽しみにしている事業である。引率する教師(養護教諭)の負担はあると思うが、有意義な体験の機会であるので、今後も継続していただきたい。	
10		体験学習を通じた人間育成				○	○		No.10 農業体験事業				高	高	高	現	農業に対する総合的な学習、体験は必要である。町の特性を生かしながら、地域の方、JAの方と協力して取り組んでいることが、広報においてPRされており、活動の充実が伺える。子どもたちも楽しんでおり、今後も継続していただきたい。	
11 12		通学における利便性・安全性の向上				○	○		No.11 スクールバス運行事業(小学校)	No.12 スクールバス運行事業(中学校)			高	高	高	現	スクールバス運行に対する要望等については、よく検討し、地域の方が納得するよう配慮し、進めていただきたい。事業としては、必要であることから、今後も継続していただきたい。	
13 14		通学における安全性の向上				○	○		No.13 小学生ヘルメット配布事業	No.14 中学生ヘルメット配布事業			高	高	高	現	自転車に乗る際のヘルメット着用努力義務化に伴い、この事業の意義は大きい。さらに子どもたちの安全を守るために、ヘルメットの正しい着用方法や扱い方を交通安全指導の中で実施してほしい。	
15		家庭・企業・地域等への参画促進・向上・特色ある講座・体験・教室の推進	体験学習を通じた人間育成	○		○	○			No.15 青少年育成事業			高	高	高	現	内容を工夫しながら事業を進めていると思う。人を集めることには、大変な苦労があると思うが、経験の場を作ることは必要な事であることから、今後も継続していただきたい。	
16			次代を担う人材の育成	○		○	○			No.16 放課後子ども教室推進事業			高	高	中	現	参加者が増えており、定員を超えた学校もあるということからも事業内容の工夫、充実が伺える。児童、保護者からも好評だと聞いている。人気がある事業であり、今後も継続していただきたい。	
17			生涯学習と社会参加の促進	○			○	○			No.17 町民教養講座開設事業			高	高	中	現	新しい講座や時代に合った講座の開設は、大変だと思うが、継続していただきたい。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、参加者が少なくても講座の継続は必要であり、必要としている町民もいるため、今後も継続して事業を実施していただきたい。
18			高齢者の生涯学習の促進				○	○			No.18 長生大学運営事業			高	高	中	現	高齢者に参加する機会を作り、健康維持のための場を提供することは必要な事である。一人一人のニーズに対応していくことは大変だと思うが、今後も継続していただきたい。
19	文化・芸術を通じた人間育成					○	○		No.19 人づくり推進事業				高	高	高	現	毎回、素晴らしい講師を招き、講演会を実施していると思う。文化事業を周知するよい機会となっているため、今後も継続していただきたい。	
20	生涯学習の推進	地域における情報拠点としての図書館運営				○			No.20 図書館運営事務			高	高	高	現	「図書の出前」サービスにおいては、協力していただき、幼稚園でも大変助けていただいている。館内もいつも整理されており、感心している。地域のコミュニケーションの場として、重要な文化の中心として今後も継続していただきたい。		
21	読書の推進	絵本を通じたコミュニケーションの促進	○			○		No.21 読書推進活動事業				高	高	高	現	読書は、心の情緒安定のための重要な役割がある。ブックスタート等幼児期から本に親しむ機会を作ることはとても大切な事業であるので、今後も継続していただきたい。		

VLT: ボランティア協力者の有無 参: 参加者負担金の有無 原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

委員評価は、「現: 現行どおり」、「拡: 拡大」、「縮: 縮小」、「休: 休止」、「廃: 廃止」の5段階評価

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1  
令和5年度

事業名	小学校理科教育設備整備事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	①学校設備の整備									
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	13	小学校管理用備品購入費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金							959 千円			
	その他財源							0 千円			
	一般財源							959 千円			
4 事業の目的	対象	町立小学校児童									
	目的	科学的な知識、技能及び態度の習得の一助となるよう、実験器具、教材等の充実を図り、理科教育の環境整備に努める。									
5 事業の概要	国の理科教育設備整備費等補助金(昭和29年～ 根拠法令:理科教育設備整備費等補助金交付要綱)を活用し、理科・算数に関する教材等の設備を整備する。 【購入備品】電磁石、筋肉の動き模型、電子てんびん、双眼実体顕微鏡、流水実験器等										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度			
	理科教育設備整備校数							4校			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	理科設備は高額であり、更新できず古い設備を使用し続けている学校もある。そのため、補助金を活用し設備を整備することは必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	各学校に希望設備を確認したことにより、不足している理科設備や新たな理科設備の整備が図れ、より充実した理科教育を実施することができた。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	理科教育設備整備費等補助金制度により、設備の整備に要する経費の2分の1について国庫補助を受けて整備をする。補助対象となる設備は、1個または1組1万円以上のものである。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	補助金など活用し、理科教材の充実に努めていることは評価できる。購入後の教材は、授業において積極的に活用してもらいたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2  
令和5年度

事業名	中学校理科教育設備整備事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	①学校設備の整備									
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	13	中学校管理用備品購入費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金							528 千円			
	その他財源							0 千円			
	一般財源							529 千円			
4 事業の目的	対象	町立中学校生徒									
	目的	科学的な知識、技能及び態度の習得の一助となるよう、実験器具、教材等の充実を図り、理科教育の環境整備に努める。									
5 事業の概要	国の理科教育設備整備費等補助金(昭和29年～ 根拠法令:理科教育設備整備費等補助金交付要綱)を活用し、理科・数学に関する教材等の設備を整備する。 【購入備品】天体望遠鏡、静電高圧発生装置、サイエンススタンド、直流電源装置等										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度			
	理科教育設備整備校数							2校			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	理科設備は高額であり、更新できず古い設備を使用し続けている学校もある。そのため、補助金を活用し設備を整備することは必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	各学校に希望設備を確認したことにより、不足している理科設備や新たな理科設備の整備が図れ、より充実した理科教育を実施することができた。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	理科教育設備整備費等補助金制度により、設備の整備に要する経費の2分の1について国庫補助を受けて整備をする。補助対象となる設備は、1個または1組2万円以上のものである。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	補助金など活用し、理科教材の充実に努めていることは評価できる。購入後の教材は、授業において積極的に活用してもらいたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3  
令和5年度

事業名	小学校入学祝い品贈呈事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	18	小学校入学祝い品支給事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金							0 千円	
	その他財源							4,801 千円	
	一般財源							28 千円	
4 事業の目的	対象	町に住所を有し、令和6年度に小学校等に入学する児童							
	目的	児童の健やかな成長を祝うとともに子育て家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援の充実を図る。							
5 事業の概要	小学校新入学祝い品としてランドセルを贈呈する。 ランドセルの色は6色(ブラック・ブラウン・ネイビー・サックス・スマイル・ビビットピンク)から選ぶことができる。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	対象児童数(R6.1.1時点)							195 人	
	贈呈人数							185 人	
	贈呈率(贈呈数÷対象児童数)							94.9%	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	入学準備には多額の経費がかかるため、ランドセルを支給することにより、子育て世帯への経済的負担の軽減効果は高いと評価できる。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	贈呈率が9割を超えており、需要が高い事業であると評価できる。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	購入先は入札により選定しており、適正価格での購入に努めている。また、対象者への周知漏れが無いよう、広報いばらき、ホームページ、個別通知により周知している。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
	入学祝い品の贈呈という取り組みが、町をあげてお祝いをしているという雰囲気があり、良い事業だと思う。また、広報等にも掲載されており、祖父母をはじめ関心が高く、喜びの声を聞いている。子どもたちへの教育や家庭への経済的支援においても効果があることから、今後も継続していただきたい。								

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4  
令和5年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育	
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17 道徳教育推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		120 千円		105 千円		100 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒・教職員						
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。						
5 事業の概要	<p>【道徳講演】 命の大切さ、いじめ防止、情報モラル(携帯・パソコンの使用について)、障がい者、LGBTへの理解、道徳指導についてをテーマに各小中学校で講演会を行う。</p> <p>【実施内容】 メディア教育、がんについての講話、「安心で安全な水を届ける国際貢献」、「ことばっていいなあ」等</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	道徳講演会実施校数				6校	6校	6校	
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数				6校	6校	6校	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の道徳性を養い、豊かな心を育成するために必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	道徳教育講演会においては、各学校が講師を招き、子供たちが社会規範や情報モラルを学ぶ機会として積極的に執り行っている。児童・生徒からも積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	各校において、児童・生徒の教育状況や現代的な課題に即した道徳教育を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり							
	町は以前から道徳教育を重点的に取り組んでいる。子どもたちの心の教育はとても大切な事業だといえる。今後は、予算にもよるが、講演会以外にも、さらに幅広い内容で実施してほしい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

令和5年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育	
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12 語学指導経費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円
	一般財源		25,846 千円			26,109 千円		26,851 千円
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。						
5 事業の概要	外国人の英語指導助手(ALT)を小・中学校に各1名を配置し、児童・生徒の英語力の向上及び英語教育の充実を図る。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	英語力の向上(県学力診断テスト1年生の平均点)			58.4点	70.5点	59.4点		
	県学力診断テスト1年生県平均点との差			-1.1点	-1.0点	-2.8点		
	ALT配置状況			6名	6名	6名		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	国際社会の進展の中で、英語力の向上は将来の社会生活において必要である。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	ALTの配置により、日常的に英語に触れる機会や外国の文化について学ぶ機会がつけられている。また、授業においてもネイティブ・スピーカーが加わることでより質の高い授業が展開されている。						
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	英語の授業時間数が増え、ALTの必要性が高まる中、全校に1人ずつの配置により、ALTを活用できる時間が増え、授業の打合せ時間も確保できるようになった。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止			
	● 現行どおり							
	ALTの各校1名体制は、今後も継続してもらいたい。テストの結果や平均点も大切ではあるが、ALTを確保し、体制を継続することが重要だと思われる。							

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

令和5年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	③心の問題への対応									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13	教育支援センター経費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		7,022 千円			6,945 千円		7,087 千円			
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員									
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談に応じ、教職員の指導力向上を図る。									
5 事業の概要	【勤務時間】	年間を通じて、実情に応じた勤務(7時間以内/日、3日以内/週)									
	【勤務内容】	不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務、各校教職員の生徒指導力の向上を図るための研修 教育相談員 6名、心理相談員 1名									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度			
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)					61人	88人	70人			
	児童100人あたりの不登校の出現者数					1.55人	3.17人	1.63人			
	生徒100人あたりの不登校の出現者数					5.05人	5.99人	6.79人			
	教育支援センターへの相談件数					713件	782件	732件			
	通級児童生徒数					4名	7名	6名			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	不登校児童生徒の割合が増加傾向の状況にあり、児童・生徒だけでなく、保護者や学校にとっても教育支援センターの必要性は高い。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	不登校児童生徒の割合が増加傾向の状況にある中で、様々な理由により学校に行くことができない児童・生徒にとって、学校に行くきっかけをつくる場となっている。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	経験豊富な教職経験者や専門職を起用することにより、問題に効率的・効果的に対処している。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	学校へ行けない子どもたちが増えている中、支援センターが身近にあることは、子どもや保護者の心のよりどころとして、安心できると評価する。子どもの自主性を尊重できる場所という存在が必要であり、今後も継続していただきたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

令和5年度

事業名	学習指導支援講師配置事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	学習指導支援講師配置事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度		
	国・県・支出金		0千円			0千円		0千円		
	その他財源		0千円			0千円		0千円		
	一般財源		14,450千円			13,851千円		13,870千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒								
	目的	学習指導支援講師を配置することにより、少人数指導やチームティーチング等のきめ細やかな指導を実施する。								
5 事業の概要	<b>【勤務時間】</b> 年間1,050時間以内(6時間以内/日、30時間以内/週、5日以内/週) <b>【勤務内容】</b> 学級担任とのチームティーチング指導 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導を実施。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	学習指導支援講師数(配置校数)					6人(6校)	6人(6校)	6人(6校)		
	全国学力・学習状況調査 対象: 小学校第6学年児童 中学校第3学年生徒 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合	算数の勉強は好きですか				69.0%	62.0%	64.9%		
		算数の授業はわかりますか				88.5%	83.8%	85.6%		
		数学の勉強は好きですか				58.6%	65.4%	54.1%		
数学の授業はわかりますか				79.9%	86.7%	73.0%				
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い   ○ 一定の必要性がある   ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	各学校の状況に応じて、非常勤講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ、指導が行き届くようになるため必要性は高い。								
	有効性	● 効果がある   ○ 一定の効果がある   ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	算数の勉強が好き、授業がわかると回答した児童の割合については、前年度より改善した。数学の勉強が好き、授業がわかると回答した生徒の割合の増加に向けても、少人数でのきめ細やかな指導に、より力を入れていく必要がある。								
	効率性	● 効率的である   ○ おおむね効率的である   ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	各学校の実情に応じ、より高い事業効果を上げるべく、県による加配とのバランスを考慮しながら、効果的に活用できるよう対応していく必要がある。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要					○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止	
	● 現行どおり									
	教科のバランスと講師の確保は大変だと思われるが、講師を各校1名配置していることは評価する。しかし、中学校における令和4年度から令和5年度における「数学の勉強が好き」の割合が減少しているのは心配である。									

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

令和5年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17	特別支援教育支援員配置事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		21,466 千円			23,232 千円		24,810 千円			
4 事業の目的	対象	肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒									
	目的	通常学級及び特別支援学級に在籍する、肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止等安全面に配慮した支援を行う。									
5 事業の概要	<b>【勤務時間】</b> 小学校：年間900時間以内(6時間以内/日、5日以内/週)										
	<b>【勤務内容】</b> 日常生活の介助、教室間移動の介助、健康・安全確保、教材作成等										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	特別支援教育支援員数						20人	22人	23人		
	特別支援教育支援員配置校数						4校	4校	4校		
	支援を要する児童数/児童数(全体)						48人/1,347人	47人/1,322人	53人/1,285人		
	支援を要する生徒数/生徒数(全体)						2人/791人	7人/767人	4人/722人		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	支援を要する児童・生徒が年々増加する中、適切な教育を実施し、円滑な学級・学校運営を行うためには、各学校の実情を把握したうえで現状に見合った数の支援員を配置することは必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	支援を要する児童・生徒一人一人の状況に応じて丁寧に対応できるため、クラス全体の落ち着きや安全の確保につながっている。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	特支援学級については、専門的な知識を有する委員による協議会において、児童・生徒の情報を共有し、支援体制を決定している。通常学級についても、学校と支援員が児童・生徒の情報を共有することで、効率的・効果的に対処している。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止								
	● 現行どおり										
	中学校における支援を要する人数が減少しているということは、小学校からの指導が行き届いているものと評価する。低学年のうちに手厚い支援を行うことにより、健やかな成長にもつながる。増員をしてもよいと思うが、現状の維持し、継続をしていただきたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9

令和5年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28	中学生自然体験教室事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		5,880 千円			5,260 千円		7,140 千円			
	一般財源		151 千円			225 千円		408 千円			
4 事業の目的	対象	生徒(中学2年生)									
	目的	自然の中で集団生活を行うことにより、学校の中では経験できない様々な体験を通じて、生徒の成長を促す。									
5 事業の概要	町内2校の中学2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。 (町助成金 参加者一人あたり3万円) (R4は新型コロナウイルス感染症を考慮し、山梨県 富士山・河口湖方面2泊3日、町助成金一人当たり2万円)										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	明光中参加生徒数						175名	141名	124名		
	青葉中参加生徒数						100名	104名	95名		
	計						275名	245名	219名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		自然の素晴らしさを体感することや生徒同士の交流を深めることができ、生徒の成長に必要である。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		自然や文化に触れることによる新たな気づきや集団生活による協調性及び自律性を育てることができた。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		町負担金により保護者の負担軽減を図ることができた。学校や生徒が主体となって行程を検討できた。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大			○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり										
	自然体験教室に係る諸経費が値上げしているため、町助成金は保護者の負担軽減になっている。生徒の参加率も良く、楽しみにしている事業である。引率する教師(養護教諭)の負担はあると思うが、有意義な体験の機会であるので、今後も継続していただきたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

令和5年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29	農業体験事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		115 千円			114 千円		114 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	本町の基幹産業の一つである農業を地域の方の協力を得ながら体験することで、自然の豊かさを学習する。							
5 事業の概要	<p>【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。</p> <p>【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目	令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	実施内容	小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、ヒマワリ、アサガオ、ホウセンカ、マリーゴールド、ツルレイシ、サツマイモ、オクラ、ピーマン、ナス、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など  中学校 ブロッコリー、白菜、大根、サツマイモの収穫、調理実習など		小学校 野菜、花の栽培(アサガオ、ホウセンカ、ピーマン、ナス、トマト、(トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習  中学校 サツマイモの収穫、販売、調理実習など		小学校 野菜、花の栽培(アサガオ、ホウセンカ、ピーマン、ナス、トマト、(トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ)、観察、収穫、調理実習  中学校 サツマイモの収穫、販売、調理実習など			
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	茨城町の基幹産業である農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の重要性や勤労の尊さを学ぶ機会を与えるため、事業の必要性は高い。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	活動を通して、自然の豊かさを学び生産者の苦勞を知り感謝の気持ちを持つことができるようになった。また、仲間と協力して活動を行うことの大切さを学ぶことができた。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> おおむね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等を町予算から執行している。また、JA水戸の協力を得て、職員を講師として派遣してもらっている学校もある。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
	農業に対する総合的な学習、体験は必要である。町の特性を生かしながら、地域の方、JAの方と協力して取り組んでいることが、広報においてPRされており、活動の充実が伺える。子どもたちも楽しんでおり、今後も継続していただきたい。								

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

令和5年度

事業名	スクールバス運行事業(小学校)	担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章 3 次代を担う人を育む教育・文化のまち	節 1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進			
2 予算の体系	款 10 項 2 目 1 事業 14	小学校スクールバス運行事業費			
3 事業費 (決算額)	財源	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	国・県・支出金	0千円	0千円	0千円	
	その他財源	10,802千円	11,688千円	10,467千円	
	一般財源	77,340千円	76,454千円	77,675千円	
4 事業の目的	対象	青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制)			
	目的	学校統合により、遠距離通学となる児童の通学の安全及び負担の軽減を図る。			
5 事業の概要	<p>【運行車両】大型バス5台、中型バス10台、小型バス3台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回</p> <p>【停留所数】青葉小学校:48ヶ所、葵小学校:21ヶ所</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>				
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	スクールバス利用者数	475名	451名	439名	
	スクールバス年間運行日数	201日	199日	199日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い			
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。			
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない			
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバスを導入して10年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。			
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない			
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。			
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止
	● 現行どおり	<p>スクールバス運行に対する要望等については、よく検討し、地域の方が納得するよう配慮し、進めていただきたい。事業としては、必要であることから、今後も継続していただきたい。</p>			

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12

令和5年度

事業名	スクールバス運行事業(中学校)						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進									
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14	中学校スクールバス運行事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		913 千円			874 千円		820 千円			
	一般財源		5,669 千円			6,319 千円		6,373 千円			
4 事業の目的	対象	青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制)									
	目的	学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。									
5 事業の概要	<p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】4ヶ所(宮ヶ崎第六公民館・香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	スクールバス利用者数						34名	32名	33名		
	スクールバス年間運行日数						200日	200日	198日		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになり、大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	スクールバス運行に対する要望等については、よく検討し、地域の方が納得するよう配慮し、進めたい。事業としては、必要であることから、今後も継続していただきたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

令和5年度

事業名	小学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進							
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14	通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		874 千円			882 千円		996 千円	
4 事業の目的	対象	児童							
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車を乗る際の着用を推進する。							
5 事業の概要	新入学児童(203名)及び4年生(228名)にヘルメットを無償で配布する。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	ヘルメットの無償提供数					441名	445名	431名	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		登下校時や家庭における安全対策が必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		新入学児童の増減により経費は変動する。また、転入の対応として追加購入することもあるため、児童数の推移を注視しながら対応している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	自転車に乗る際のヘルメット着用努力義務化に伴い、この事業の意義は大きい。さらに子どもたちの安全を守るために、ヘルメットの正しい着用方法や扱い方を交通安全指導の中で実施してほしい。								

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

令和5年度

事業名	中学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	3	目	2	事業	14	通学援助費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度		
	国・県・支出金		0千円			0千円		0千円		
	その他財源		0千円			0千円		0千円		
	一般財源		1,383千円			711千円		606千円		
4 事業の目的	対象	生徒								
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車を乗る際の着用を推進する。								
5 事業の概要	令和5年度の新入学生徒に対し、ヘルメットを無償で配布する。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	ヘルメットの無償提供(購入補助)数					228名				
	ヘルメットの無償提供数					233名	237名	202名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		自転車通学時や家庭での自転車利用時の安全対策に必要である。							
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の生徒を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。							
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか		新入学生徒の増減により経費は変動する。無償配布により入学時の保護者の負担を軽減することとなっている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止							
	● 現行どおり									
	自転車に乗る際のヘルメット着用努力義務化に伴い、この事業の意義は大きい。さらに子どもたちの安全を守るために、ヘルメットの着用の仕方や扱い方を交通安全指導の中で実施してほしい。									

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

令和5年度

事業名	青少年育成事業						担当課	生涯学習課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成			
	基本施策		④青少年の体験・交流活動等への参画促進							
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	12	青少年育成事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			76 千円		70 千円		
	一般財源		13 千円			47 千円		67 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒								
	目的	様々な体験活動や学習機会を提供し、子どもたちの人間性・創造性を育むことを目的とする。								
5 事業の概要	①里山自然体験 (1回:9人) ②夏休み体験教室 (1回:30人) ③チャレンジ!お菓子の株式会社 (1回:6人) ④ストリートダンス入門 (1回:6人) ⑤キッズDJ体験 (1回:5人) ⑥将棋教室 (1回:7人)				⑦世界のボードゲーム (1回:8人) ⑧バルーンアート教室1 (1回:18人) ⑨バルーンアート教室2 (1回:6人) ⑩おもちゃを作ろう (1回:12人) ⑪缶バッジ&デコマグネット作り (1回:6人)					
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	自然体験事業参加人数					0 人	21 人	39 人		
	子ども教室参加人数					0 人	146 人	74 人		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	日常では経験できない様々な体験、交流活動を通して、創造性、協調性を育む機会を提供している。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	異年齢の子どもたちが、町の自然を生かした体験や多様な学習を行うことで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	里山体験では、常陽森のボランティアに委託したことにより充実した内容と職員の負担軽減になった。 募集のチラシは小、中学校を通して配信し、窓口、FAX、インターネットを利用して申し込みの受付を行っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	内容を工夫しながら事業を進めていると思う。人を集めることには、大変な苦労があると思うが、経験の場を作ることは必要な事であることから、今後も継続していただきたい。									

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

令和5年度

事業名	放課後子ども教室推進事業						担当課	生涯学習課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成			
	基本施策		③ 家庭・地域の教育機能の向上							
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	13	放課後子ども教室推進事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度		
	国・県・支出金		1,306 千円			872 千円		734 千円		
	その他財源		301 千円			737 千円		798 千円		
	一般財源		4,645 千円			3,176 千円		3,024 千円		
4 事業の目的	対象	児童								
	目的	小学校の施設を利用して、児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行う機会を設ける。								
5 事業の概要	町内全4小学校において、週1回実施。(全88回) 長岡小学校、大戸小学校、葵小学校は定員60名、青葉小学校は定員70名。 放課後の時間を利用して、自主学習、スポーツ体験活動等を行っている。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	実施校数					4校	4校	4校		
	参加者数					188人	218人	235人		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	子供たちの安全・安心な活動拠点として、様々な学習、スポーツ体験活動等を提供している。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	異年齢との活動や様々な体験により豊かな人間性を育む場となっている。								
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	アンケート調査を実施し、実施内容の検討・充実を図っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止					
	● 現行どおり	参加者が増えており、定員を超えた学校もあるということからも事業内容の工夫、充実が伺える。児童、保護者からも好評だと聞いている。人気がある事業であり、今後も継続していただきたい。								



# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

令和5年度

事業名	長生大学運営事業						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習	
	基本施策	④ 特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	14 長生大学事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		0 千円			129 千円		145 千円
	一般財源		104 千円			64 千円		0 千円
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民						
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいづくりの一環として学習やクラブ活動を行うことを目的とする。						
5 事業の概要	<p><b>【事業内容】</b>                      実施回数：22回(学習会5回×、卒業式クラブ活動16回)                      活動内容：学習会(講話聴講)、クラブ活動                      受講料：1,000円 送迎バス：1,000円                      申込者数：132名</p> <p style="text-align: right;">&lt;学習会&gt;                      ①開講式・熱中症予防について②落語「笑いは健康の源」③「健康長寿とフレイル」④茨城県警音楽隊による演奏⑤「介護予防とICF」⑥卒業式                      &lt;クラブ活動&gt;                      大正琴クラブ 8回、民舞クラブ 8回</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度
	長生大学受講生数(延べ)					0 人	401 人	530 人
	クラブ活動者数(延べ)					128 人	160 人	144 人
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	長生大学の受講者の意見等を反映し、参加者の希望に添う事業運営に努めている。						
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	高齢者の生きがいや健康づくりの支援、コミュニケーションの場を提供し、生涯を通じた学びの場となっている。						
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	巡回バスや健康増進課と連携し健康に関する講座の開催等高齢者に対応した企画、運営を行っている。また、クラブ活動の開催に対応した企画、運営を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止			
	● 現行どおり							
	高齢者に参加する機会を作り、健康維持のための場を提供することは必要な事である。一人一人のニーズに対応していくことは大変だと思うが、今後も継続していただきたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

令和5年度

事業名	人づくり推進事業							担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち					節	2 生涯学習	
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	7	事業	13	人づくり推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		0 千円			522 千円		411 千円	
4 事業の目的	対象	全町民							
	目的	一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、豊かな心と広い見識を持つ人づくりを目的とする。							
5 事業の概要	<b>【人づくり文化講演会】</b> 講師：河合 敦 氏 演題：世界一受けたい日本史の授業 期日：令和6年2月11日（茨城町民の日） 会場：旧駒場小学校体育館								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	文化講演会聴講者数					0 人	300 人	300 人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		町民の学習機会の充実を図り、学習意欲の向上を支援するために本事業の必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		豊かな心を育むとともに、広い見識、自己啓発の場としての効果をあげている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		多くの町民の参加を促すため、広報誌、ホームページだけでなく、秘書広聴課と連携し、町民の日開催ポスターへ掲載し、広く周知を図っていく。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	毎回、素晴らしい講師を招き、講演会を実施していると思う。文化事業を周知するよい機会となっているため、今後も継続していただきたい。								

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

令和5年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習				
	基本施策	② 生涯学習関連施設の整備充実・利用促進									
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11	図書館運営事務費		
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		8,758 千円			9,004 千円		9,750 千円			
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域)									
	目的	図書館は地域の情報発信拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種サービス及び情報提供することを目的としている。									
5 事業の概要	一般利用者及び町内施設等へ資料貸出を行う。町民の学習、読書意欲に応えるため、多岐にわたる情報を把握し、幅広い資料収集に努め、利用者にきめ細やかで迅速な対応ができるようにする。また、幼児・児童・生徒に対し読書を習慣づける取り組みとして、本の出前、総合学習の支援、施設見学などを積極的に受入れ、図書館利用促進につなげる。さらには職場体験等を実施し、図書館を通して勤労観を養い、社会参加、地域交流、人づくり教育の場としての一役を担う。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度			
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)					99,923冊・点	100,621冊・点	99,375冊・点			
	団体貸出(出前サービス含む)					12,308冊	13,547冊	14,187冊			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		情報通信技術の進展により、多種多様なリクエスト・レファレンス・要望が多い中、ネットワーク等を活用しながら、住民それぞれのニーズに合った迅速な資料・情報の提供を行っている。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		図書資料の貸出については、一般利用者のほか、保育園や幼稚園、小・中学校、施設などに対し「図書の出前」サービス等で積極的な貸出を行った。また、来館者数では、61,668人と3年連続して前年を上回った。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		図書資料については、利用者の要望等に応えながら、幅広い選書かつ無駄のない選定による購入を行うとともに、あわせて相互貸借(県内図書館)を活用し、充実した資料の収集・提供を図っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	「図書の出前」サービスにおいては、協力していただき、幼稚園でも大変助けていただいている。館内もいつも整理されており、感心している。地域のコミュニケーションの場として、重要な文化の中心として今後も継続していただきたい。										

# 教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

令和5年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習			
	基本施策	⑤ 読書活動の推進								
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12	読書推進活動事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		令和3年度			令和4年度		令和5年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		303 千円			268 千円		238 千円		
4 事業の目的	対象	生後4～8か月の乳児及び保護者、小・中学生								
	目的	ブックスタート事業や読み聞かせ事業のほか、小・中学校への図書館司書派遣を行うことで、乳幼児をはじめ、児童・生徒が本に慣れ親しみやすい環境を整え、読書推進を図ることを目的とする。								
5 事業の概要	ブックスタート事業は、生後4～8か月児を対象に健康増進課で実施する離乳食教室及び育児相談時に、図書館司書とボランティアが絵本の読み聞かせを行い絵本を配布する。また、ブックスタートのフォロー版として読み聞かせ事業『絵本となかよし』を開催し、さらには町内の小学校へ図書館司書を派遣し、図書館資料お届けサービスや学校図書室の環境整備などの支援、中学校ではブックトーク等を行う。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	ブックスタート事業(離乳食教室、育児相談)					97人	87人	99人		
	小・中学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)					51回	59回	60回		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少子化や核家族化が進み、人と人、地域との繋がりが希薄となりつつある現在、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からボランティアとそれぞれの地域と連携した子育て支援が求められている。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	ブックスタートでは、コロナ禍により中止していた赤ちゃん、お母さんと図書館司書やボランティアとの対面での読み聞かせを開始し、本来目的とする「絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つ大切さ」を伝えることができた。図書館司書派遣事業については、定期的に小学校へ司書を派遣し、学校図書室の整備など支援活動を行いながら、児童たちと交流を図ることで、児童は本への興味を持ち、リエスタの貸出数を増やすことができた。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	ブックスタート事業では健康増進課と連携をとりながら、年次計画で参加者を把握し、過剰な残数がでないよう絵本セット(絵本・布製バック・アドバイスパック)を購入した。離乳食教室と育児相談を利用して事業を行うことで、対象者にもれなく絵本が手渡せる効率的な事業を展開できた。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止								
	● 現行どおり									
	読書は、心の情緒安定のための重要な役割がある。ブックスタート等幼児期から本に親しむ機会を作ることはとても大切な事業であるので、今後も継続していただきたい。									

## 教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等、貴重なご意見をいただき、令和5年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで令和5年度における主要21事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等を確認いたしました。

点検及び評価を実施した結果、評価対象である21事業について概ね良好に執行されているとして、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。

各事業にてご意見やご指摘をいただきました課題や改善事項につきましては、個々の事業を再点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

さらに、次年度の点検及び評価につきましては、引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の運営に努めてまいります。

令和6年8月

茨城町教育委員会